



2023

環境・社会報告書

 **NANKAI**
chemical
ESG Report 2023

TOP MESSAGE

ごあいさつ

化学品事業を通じて 地球環境と 豊かな社会の創生に貢献する



南海化学が目指すサステナビリティ

当社は1906年の創業以来、化学品メーカーとして歩み続けてまいりました。今年4月には、東京証券取引所スタンダード市場に上場し、これまで以上に企業価値を高め、社会への責務を果たしていくことを目指してまいります。今後も当社の強みを活かした事業展開を図り、収益を上げることでステークホルダーの皆様の信頼と期待に応えてまいります。

地球環境を取り巻くさまざまな課題は世界規模であり、どの企業にとっても「サステナビリティ」は最重要項目です。当社は環境負荷の軽減に視点を置き、製造過程における廃棄物や製品の再利用などを全社的な課題として、早くからその解決策に取り組んでまいりました。持続可能な社会を願うニーズの高まりを受け、廃硫酸のリサイクルをはじめとして、その成果は着々と実を結んでおります。これらの事業を通じて環境負荷軽減の一助を担い、社会の持続可能な発展に貢献することが私たちのミッションです。

「南海化学グループ」が企業活動を継続していく根幹となるのは、「つくる」「回収する」「再利用する」の3つの責任を果たすことです。ものづくりの基盤である基礎化学品の製造とともに、環境リサイクル事業を主力事業として発展させていき、循環型社会の実現に向けて、社会にも当社にもサステナブルな未来を描いてまいります。

地域社会との共生に向けて

マーケティングや社会貢献を考える上で、地域との共生は当社の重要な課題です。地域に根ざした事業活動によって物流などの過剰なコストが抑制され、雇用やまちづくりの活性化につながっております。「レスポンシブル・ケア活動」を積極的に推進し、製造から廃棄・再利用に至るまで環境負荷軽減に力を注ぎ、豊かな自然や安心して暮らせる地域社会の実現に尽くしてまいります。

当社が製造する基礎化学品をはじめとする製品は、あらゆる産業や生活に必要な不可欠な存在です。安心・安全や衛生、健康、環境保全に関わる製品も多く、将来においても人々の暮らしのベースを支えてまいります。「化学品事業を通じて地球環境と豊かな社会の創生に貢献する」という企業理念を今後も真摯に貫いてまいります。

各事業への取り組みやSDGs(持続可能な開発目標)の実績などを「2023環境・社会報告書」にまとめました。当社への理解を深める一冊としてご活用いただくとともに、今後の活動に向けてご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年 11月

代表取締役社長執行役員

菅野 秀夫

化学で未来を創る

生命の根源でもある「海」

そこには創造と進化、そして大きな未来が広がっています。

南海化学の製品と技術は「化学」という大きなフィールドの中で

大きな波や小さなうねりを敏感にキャッチしながら

常に新しい価値を創造し続けています。



無機工業
薬品事業



水処理
殺菌消毒剤事業



水処理剤事業



健食事業



有機ファインケミカル
事業



農薬事業



硫酸
リサイクル事業



塩事業

レスポンスブル・ケア活動



レスポンスブル・ケア®

化学物質に関連する企業が、自己決定・自己責任の原則に基づいて、化学物質の開発・製造から消費・廃棄に至るすべての段階において、「安全・環境・健康」に対する自主的な配慮を行おうとする活動。南海化学は日本レスポンスブル・ケア協議会設立と同時に加盟し、推進しております。

本報告書の対象について

報告対象期間：環境保全データは2022年4月から2023年3月を対象期間としています。なお、一部当該対象期間以前もしくは以降の活動も報告内容には含まれております。

報告対象組織：各種データは南海化学株式会社国内工場を対象としています。その他の報告については、南海化学グループ全体の情報を記載しました。

報告対象分野：環境安全活動、環境パフォーマンスデータ、及び持続可能な社会への貢献を目指した各種取り組みを中心にまとめております。

発行：2023年11月

参考としたガイドライン

IIRC (International Integrated Reporting Council:国際統合報告評議会)
国際統合報告フレームワーク (IIRCフレームワーク)

本報告書に関するお問い合わせ先

管理部 人事総務グループ

Contents

バック ナンバー	ごあいさつ	01
	事業領域 / 編集方針 / Contents	02
価値創造	南海化学のサステナビリティ	03
	あなたの街の南海化学	04
中長期戦略	社長メッセージ	05
	南海化学だからできること	06
【特集】 アクション	健康経営に向けた取り組み / ジェンダー平等	07
	男性育児の取り組み	08
取り組みについて	SDGsに対する取り組み / 化学品・製品安全	09
	物流安全 / 保安防災 労働安全衛生	10
ガバナンス	労働安全衛生 社会との対話 / コンプライアンス 公正な商取引	11
	コーポレート・ガバナンス	12
データ	環境と安全の基本理念と基本方針	13
	2022年度 活動目標と結果、2023年度 活動目標 廃棄物の削減・化学物質排出量削減	14
概況	地球温暖化防止対策・環境対策投資 / 大気汚染防止・水質汚濁防止	15
	財務データ	16
	会社概況	17
		18
		19
		20
		21
		22
		23
		24
		25
		26
		27
		28
		29
		30
		31
		32
		33
		34

南海化学の価値創造

様々な社会課題や当社に求められる役割を適切に把握し、
 ステークホルダーの皆様との対話を通じて
 多様なステークホルダーとの共生を目指し、企業価値向上に努めていきます。

「水を作り、土を活かし、人を育む」

国内外を取り巻くテーマとして気候変動、人口増加など様々な課題がある中、まず環境負荷の削減に寄与することが当社の役割であり、それをステークホルダーの皆様にご評価いただくことで、優秀な人材の確保につながり、従業員の働きやすい環境の実現を通して、多様性の推進等が経営リスクの軽減へのサイクルとなります。

また社会全般において幅広く使用されている製品・サービスを提供する者としての責任を自覚し、製品・サービスを安定的に供給することを社会的使命として行動し、企業理念に基づく事業活動を通じて社会の持続可能な発展に貢献することが、私たちに期待されているサステナビリティ(持続可能性)と考えています。



環境	サステナビリティ基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本理念 ● 基本方針 ● 内部監査・外部監査 ● 環境保全目標 ● レスポンシブル・ケア ● ISO14001
社会	サステナビリティ基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 品質方針 ● 労働安全衛生目標 ● 物流安全目標 ● 化学製品安全目標 ● 保安防災目標 ● 女性活躍推進 ● ダイバーシティ推進 ● 社会との対話 ● 働き方改革(労働環境整備) ● 人材教育方針(次世代教育振興) ● 健康経営推進
ガバナンス	サステナビリティ基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● リスクマネジメント方針 ● コンプライアンス方針 ● BCP方針 ● 情報開示方針 ● 知的財産に関する方針 ● 個人情報の保護に関する方針 ● コーポレート・ガバナンス基本方針

「こんなところで」 南海化学

皆様の暮らしの中の
様々な所で
南海化学の製品が
使用されています。

工業・産業

01 苛性ソーダ



用途 基礎化学品原料
利用シーン 工場

工業用に広く利用される薬品で、上下水道や工業排水の中和剤としての利用の他に、リチウムイオン電池、製紙パルプ、樹脂、石けん、洗剤の原料としても使われています。

工業・産業

02 次亜塩素酸ソーダ




用途 消毒
利用シーン キッチン、家

除菌・消毒・漂白の目的として上下水道や浴場・プール、食品加工・衛生、産業の廃水処理に使用されています。

食品・サプリメント

06 酢酸ナトリウム



用途 食品、総菜
利用シーン コンビニ

食品衛生法による「酢酸ナトリウム」の分類は「指定添加剤」とされ、酸味・酸度の調整、pH調整、日持ち向上といった特徴・用途があり、食品加工には欠かせない添加物のひとつです。練製品、製パン、製麺、惣菜、漬物といったさまざまな加工食品から、ソース類、マヨネーズなど酸性調味料食品など、幅広い用途でお使いいただけます。

食品・サプリメント

07 グルコサミン



用途 健康食品
利用シーン 家・個人

グルコサミンは、関節の衝撃を吸収する組織である軟骨の構成要素であるアミノ糖の一種です。当社では、高度な精製技術により、不純物を徹底的に除去した「グルコサミン塩酸塩」を提供しております。

医療・衛生・健康

08 トリクロロイソシアヌール酸 (スウィーパー)



用途 消毒
利用シーン 家、浄化槽

スウィーパーシリーズはトリクロロイソシアヌール酸を主成分とした有機塩素系水処理剤です。有効成分70%・99%、形状の豊富な商品をご用意しておりますので、浄化槽や使用目的に合わせてお選びいただけます。



工業・産業

03 硫酸



用途 基礎化学品原料
利用シーン 工場(精油所)

石油触媒、染料、化学肥料、繊維、樹脂、金属加工、製紙パルプ等の工業分野において幅広く利用されています。

工業・産業

04 硫酸ばんど・ポリ硫酸第二鉄



用途 凝集剤
利用シーン 下水処理場

汚れた水の濁り・浮遊物の凝集・沈殿目的として、工場排水、下水、ごみ焼却処理、汚泥脱水、し尿処理の分野にて利用されています。

工業・産業

05 ポリ塩化アルミニウム



用途 凝集剤
利用シーン 浄水場

ポリ塩化アルミニウムは水をきれいにするために使われます。水の中にある細かなゴミを薬品の力で集め(凝集といいます)、沈殿や濾過によってきれいにします。川の水を飲料水にしたり、下水を浄化するために使われます。

医療・衛生・健康

09 ジクロロイソシアヌール酸ナトリウム (スターダイクロン) トリクロロイソシアヌール酸 (スタートリクロン)



用途 消毒
利用シーン プール

スタートリクロンダイクロンシリーズは清潔で安全なプールの快適環境づくりをトータルサポートします。シーズンを問わず、屋外でも屋内でも遊泳用、学校用など豊富なラインナップを誇る「スタートリクロンダイクロンシリーズ」があらゆるニーズにお応えします。

医療・衛生・健康

10 高度晒粉(スタークロン)



用途 消毒
利用シーン プール

スタークロンPシリーズは清潔で安全なプールの快適環境づくりをトータルにサポートします。シーズンを問わず、屋外でも屋内でも遊泳用、学校用など豊富なラインナップを誇る「スタークロンPシリーズ」があらゆるニーズにお応えします。

農業

11 土壌くん蒸剤



用途 農薬
利用シーン 畑

連作障害によって引き起こる様々な土壌病害から作物を守り、農作物の安定生産をサポートしています。

南海化学の強みを活かして 「未来に価値ある」 「社会に役立つ」 事業を推し進めてまいります



——「南海化学」の事業としての特性とは？

菅野社長(以下菅野) 当社は化学品メーカーとしての事業を展開する一方で、化学品を扱う中で得た経験や知識を活かして、廃硫酸や廃硫酸黄などの処理を行うリサイクル事業も手掛けております。廃棄物を処理して、その再生品をさらに二次活用して社会に送り出す…循環型社会の典型的な取り組みです。「ものづくり」と「リサイクル」の二つの事業を一社で手掛けるのは非常に稀なケースで、これは当社の大きな強みだと考えております。

これらを事業化できるのは、問題解決のための“化学”の技術が当社に備わっているからです。創業時より「酸」や「アルカリ」を扱ってきて、専門的なノウハウを蓄積してまいりました。それが財産となって環境リサイクル事業にもスムーズに参入でき、硫酸のリサイクルに関しては全国でもトップクラスのシェアを誇っております。硫酸や硫酸黄などの不純物を取り除くのは非常に困難な作業で、他社が参入しにくいほど当社の存在価値が際立っております。

——環境リサイクル事業の将来的な目算は？

菅野 現時点での当社の売上高において環境リサイクル事業はわずか9%ですが、これを飛躍的に拡大させ、現在主力である化学品事業との二本柱になるような事業に育てたいと考えております。

これまで廃棄物は「捨てる」「埋める」「燃やす」で処理してまいりました。しかし「捨てる」も「埋める」も土地のコストや環境負荷を考えると限界があります。「燃やす」は莫大なエネルギーコストがかかります。廃棄物を回収して不純物を取り除き、安全な状態でリサイクルして市場に戻すと、さらなる利益を生み出し、コストパフォーマンスにも優れております。また、環境を守ることで企業のイメージアップにも貢献できます。

この循環型ビジネスに対するニーズは今後ますます高まっていくでしょう。その声に応えることが「南海化学」の成長につながっております。廃硫酸、廃硫酸黄はもちろん、脱塩素や電池などのリサイクルを含め、環境リサイクルの分野にはまだまだ私たちが参入できるチャンスが広がっております。

——南海化学が照準を定めるマーケットとは？

菅野 化学品を製造するプロダクトアウト型から、社

会や顧客のニーズに応えるマーケットイン型の企業へと、当社は大きく舵を切りました。とはいえ当然、苛性ソーダや硫酸、次亜塩素酸ソーダ、水素など化学品を主役にした企業であることは変わりません。当社にしかできない、当社の強みが活かせる、そんな“ニッチ”な分野にアプローチしてまいります。

今、有望なマーケットとして期待しているのはPPS樹脂に関わる業界です。PPS樹脂は耐熱、成形などに優れた軽量なハイスpek樹脂で、世界中で需要が伸びております。この原料となる硫酸、苛性ソーダ、水素を一社で製造しているのは日本では「南海化学」しかありません。そのメリットを活かし、これらをパッケージ化して一括供給してまいります。

そして食品の分野では、酢酸ナトリウムを活用して賞味期限を伸ばし、フードロスの軽減に役立てております。電池リサイクルも数年後を目処に事業化する計画です。意外なところではプールの殺菌剤に使用される高度さらし粉。これは現在日本で2社しか扱っておらず、今後も社会に不可欠な製品と捉え、社会的責任を果たすためにも積極的に事業を継続してまいります。

——東京証券取引所スタンダード市場に上場を果たし、今後の抱負は？

菅野 まず環境や社会に貢献できる企業としての信頼を築きたいと考えております。上場で得た資金を様々な設備に投資し、事業の質を高めて、さらに持続可能な経営を推し進めたいと思っております。また優秀な人材の確保にも有効ではないかと期待しております。人もまた重要な資産の一つですから、優れた人を採用することは経営の発展に関わります。株主の皆さまに応援していただけるよう、企業体質の強化とともに株主還元への拡充に尽力してまいります。

私が目指すのは、課題があれば常にみんなで議論して結論を出していくという健全で透明性の高い経営です。ここ数年間は上場を視野に入れ、社内の問題解決や整理を進め、上場企業としてのスタートを切ることができました。

「環境負荷を軽減する」「社会に貢献する」、すべての事業の原点にその想いがあります。もちろん当社の技術だけで叶えられるわけではありません。多くの企業にサポートしていただいて連携していきながら、企業理念を実践していきたいと思っております。

持続可能な社会に向けて、「南海化学」の成長戦略

鍵は

「リサイクル」と「塩」

将来的な経営を見据え、環境リサイクル事業と塩事業に注力。

どちらも「南海化学」の強みを活かし、「社会貢献」と「環境負荷の軽減」に役立つ事業です。

「他社が追随できない、南海化学だからこそできる挑戦を」

サステナビリティや SDGs が問われる時代だからこそ、

「化学品事業を通じて地球環境と豊かな社会の創生に貢献する」という経営理念が輝きます。



地球環境にプラスな事業

しか手掛けない

「南海化学」の決意です

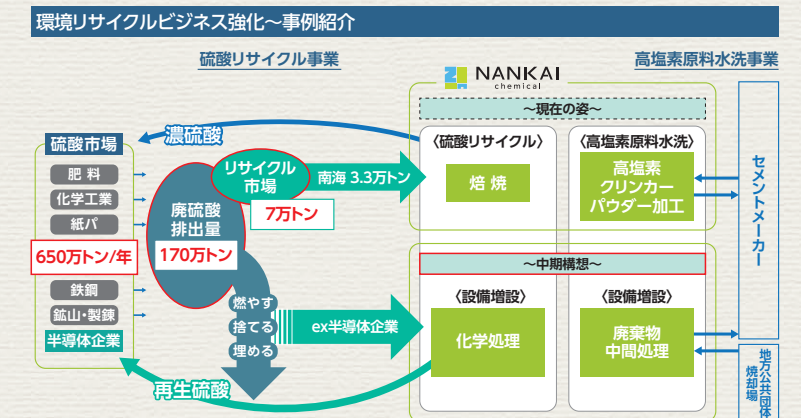
専門的な知識と技術で独自路線を貫く ニッチなマーケットにこそ勝算あり

「南海化学」の環境リサイクル事業

循環型社会への機運が高まる中、廃硫酸のリサイクル市場において「南海化学」は7万トンのうち3.3万トンを含め、トップのシェアを誇っております。硫酸の処理に悩む半導体メーカーにおいても「廃棄ではなくリサイクル」という選択が広がりつつあり、SDGsの点からも今後ますますリサイクル需要は拡大していくと思われまます。

またこの秋には高知県の土佐工場で、脱塩事業に着手しました。化学品の製造ラインから排水する冷却水を活用し、クリンカーの塩素を低減することで、セメント原料に利用できるようになります。

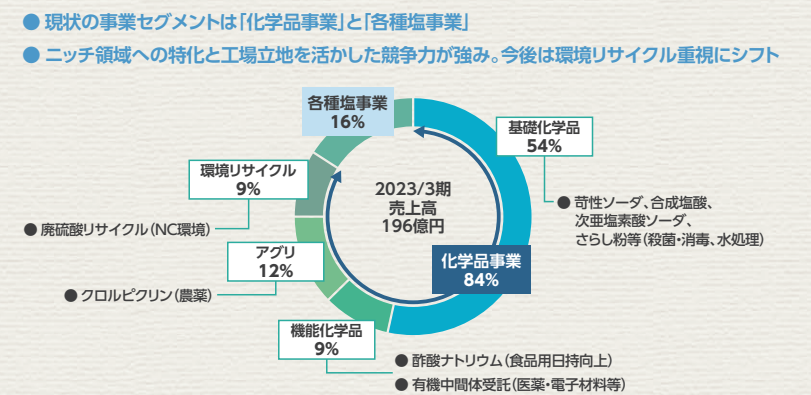
「南海化学」の環境リサイクル事業は、化学品メーカーとしての経験と実績の延長線にあるものです。硫酸を「つくる」事業から「リサイクルする」事業へ。化学品をつくる工場排水を利用して脱塩事業へ。さまざまな事業がつながり、無駄なく循環しております。化学品への深い知識と独自の技術がすべての事業を支えております。



塩事業への期待と可能性

塩は当社の主力商品の苛性ソーダの原料となるもので、そこから塩事業を手掛けるようになりました。「南海化学」が扱う塩は、オーストラリアやメキシコで太陽光により精製された天日塩を輸入し、100以上の製品を生み出しております。一般的に塩の精製には電気などのエネルギーが必須ですが、当社の場合は太陽と風という自然の力をフルに活用した環境にやさしい塩です。SDGsの観点からもコスト面からも天日塩はメリットが大きく、サステナビリティ重視の時代にマッチしております。

和歌山に工場があり、雪を溶かす融雪塩の生産が多いですが、和歌山特産の南高梅専用の特別な塩も製造するなど天候等の変動の影響を受けにくい売上げの実現を目指してまいります。塩事業においても「環境負荷の軽減」「社会貢献」の視点は欠かせません。今後も自然の力を活用したエコロジカルな製造を継続してまいります。さらに梅に使う塩づくりを通して、地域産業の活性化にも貢献していきたいと考えております。



ニッチな分野でトップを狙う！

硫酸リサイクル市場でなぜNo.1になれるのか？それは硫酸が非常に扱いにくく、廃硫酸の工程が困難だからです。硫黄も同様で、燃えやすく爆発する危険性もあります。化学に精通していることが必須で、競合が生まれにくい分野なのです。リサイクル、フードロス、カーボンニュートラル、エネルギー問題、健康など世界的な社会の課題に、“化学”を活かして解決策を考える。私たちはニッチなビジネスチャンスを見逃しません。

特集 | 1 健康経営・ジェンダー平等

「健康経営優良法人2023」に認定

「健康経営®」とは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することとされ、健康経営優良法人認定制度は、地域の健康課題に即した取り組みや、日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。健康経営を推進するにあたり、2021年10月に「健康経営宣言」を策定し、従業員の健康意識の向上や生活習慣の改善、メンタルヘルス対策の強化といった重点施策に取り組むなか、2022年度に引き続き、「健康経営優良法人2023」の認定を受けました。

今後も社員の心身の健康づくりに取り組み、社員の働きがいと経済成長に貢献することを通して、企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

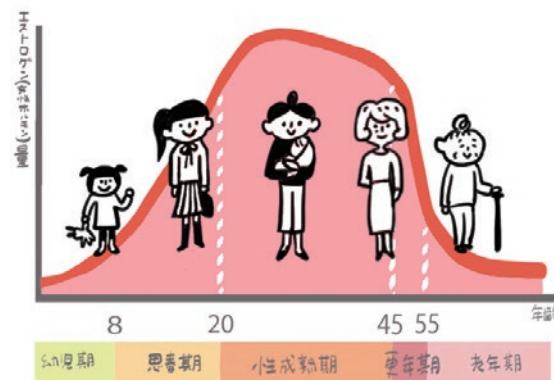


女性特有の健康課題への取り組み

男性と女性と比較すると、かかりやすい病気が違う、同じ病気でもかかりやすい年代や病状、治療などが異なる場合がある、といったこともわかってきました。特に女性は、思春期、性成熟期、更年期、老年期と生涯を通じて女性ホルモンが大きく変動し、より影響を受けやすいとされています。また、10代から始まる月経や妊娠・出産、比較的若い世代から罹患率が高まる婦人科ガンなど、女性特有の健康課題は様々です。

健康課題の有無にかかわらず、女性が妊娠・出産、育児などライフイベントを通じて働き続け、その能力を発揮するためにも女性の健康支援が大切です。

女性特有疾患検診は、40歳未満の補助金制度がないため全額自己負担となり、40歳以上でも偶数年のみ会社負担、それ以外は自己負担で受診しておりましたが、当社では、女性活躍推進タスクフォースの取り組みにより、2020年4月より、当社グループに勤務する満34歳以上の女性役職員に対する「乳がん検診（マンモグラフィ検診・超音波検診）・子宮頸がん」の検診を会社負担で受検できるように「女性特有疾患検診補助」制度を導入しております。



女性活躍推進タスクフォース

南海化学グループでは、女性が活き活きと活躍できる職場環境を整えることや女性社員のキャリアアップの機会を増やすことにより、企業の経営効率を高めるとともに、持続的成長に寄与することを目指して、2018年7月に女性活躍推進タスクフォースを発足し、様々な取り組みを進めております。

2023年5月に開催した女性活躍推進タスクフォース会議では、2023年4月に入社した新入社員から3名が参加しました。

今後の具体的な取り組み内容

- 育児との両立
- 子育てをしながら管理職になるための喜びや不安、モチベーションの保ち方
- 管理職になるためには何を身につければよいか組織のなかで活かせるコミュニケーション能力
- セルフプロデュース、コーチング



営業本部 大阪ケミカル営業部
大阪ケミカル材グループ 吉野さん

「女性活躍推進タスクフォースという名前から女性のための活動だと思っていましたが、性別関係なく働きやすい環境を整えるために活動されている点が印象的でした。」



営業本部 大阪ケミカル営業部
土佐ケミカル材グループ 北村さん

「福利厚生の利用を振り返る等、より働きやすい会社になるために必要な取り組みであると感じました。他の方の福利厚生の活用方法や、受講したセミナー等をもっと知りたいと思いました。」



営業本部 大阪ケミカル営業部
南海デリバリーグループ 喜田さん

「女性限定の事象をメインとした会議と認識しておりましたが、実際には性別に関わらず全社員へ向けた改善策や取り組みを行っていて、より良い環境を目指す上で重要な会議だと感じました。」

令和5年度高知市男女共同参画推進企業表彰を受賞

男女共同参画推進企業表彰は、高知市内の企業における男女共同参画の取り組みを推進するため、平成24年度から実施され、これまで67の企業が受賞しています。土佐工場については、仕事と家庭の両立支援をすすめ働きやすい環境づくりに取り組んでいる点や、積極的な健康管理支援が評価され、2023年8月に表彰されました。



特集 2 男性社員の育休取得インタビュー

2022年4月より育児男性育休は男女平等関係者のリアルな声

・介護休業法が改正され、男性社員の育児休業取得の取り組みが促進されている中、本年度に入り本社より2名の男性社員が育休を取得されました。な社会を築くための重要な取り組みであり、家族の絆を強め、女性の社会進出を支援し、仕事と家庭の両立が期待されます。実際に育休を取得したご本人、を通じて、制度をより身近に感じていただき、またメリットと重要性の理解を深めていただきたく、ご本人、配偶者、上司の方にインタビューをさせていただきました！

ご本人編
営業本部 海外営業室
孫 永昌 さん

Q 今回なぜ育休を取ろうと思ったのでしょうか？取得を決めたきっかけは？

子供が生まれる前に、妻から一人で子育てがうまくできるか非常に不安があり、はじめての子供なので、できれば一緒に子育てをしてほしいと相談がありましたので、育休を取得すると決めました。

Q 育休の期間はどのようにして決めましたか？

妻が台湾で出産をすると決めていたので、1回目は台湾で1か月共に子育てをして、2回目は妻と子供が日本に帰ったら、周りのサポートが慣れないことも多いと考えたので、6か月で決めました。



Q 育休中の1日の過ごし方を教えてください。

朝から妻と交代で子供にミルクをあげたり、オムツを替えたり、お風呂に入ったりしていました。泣くことが多いので、抱っこも常にしていました。気分転換として外で飲み物を買ったり、食事もテイクアウトを利用しました。

Q 育休を取得してどうでしたか？

やはり子供の成長も見守れて、妻の負担も軽減できるところが、非常に良かったです。

Q 育休取得後に環境や精神面で何か変わったことはありますか？

育休取得後、妻からサポートをしてくれてありがとうと言われて、役に立ってよかったと思います。また子供が生まれて、責任感もより一層感じるようになりました。

Q 男性の育休取得率が低い理由は何だと思いますか？

男性育休を取得する人が非常に少なく、取りづらい雰囲気や大きな理由だと思います。また人手不足のため、仕事をサポートしてくれる人が少ないからだと思います。

Q これから取得しようか迷っている人にアドバイスがあれば。

最初に家族と話し合い、取得をするかを決めてから、早めに上司、同僚に取得期間などを含めて自分の考えをしっかりと伝えるほうが良いと思います。

Q 自由な意見をどうぞ。

最初から慣れないことばかりで、子育ては思ったより結構大変で、不安なところもたくさんあると思いますが、妻とともに子育てに取り組む、子供の成長を見守れて、取得して良かったと思います。

上司編
営業本部 海外営業室
和田 崇 室長

Q 育休の相談を受けた時の思いを教えてください。

できる限り、本人の希望に沿うようにしたいと思いました。また、男性でも気兼ねなく育休の取得ができる社会になることを望んでいます。



和田室長 孫さん

Q 良かったことはありますか？

育休の制度により、社員、及び社員の家族の幸福度が上がればと考えています。この度の孫さんの育休の取得が社内外に良い影響を与えることができると考えています。

Q 周りの反応はいかがでしたか？

お客様からは「良い会社ですね」という言葉を多くいただいています。男性の育休取得はまだ少ないように感じています。

Q 上司として心がけたことは？

社員が気持ちよく制度を利用できればと考えています。また、本人が安心して休めるよう努めていきたいと考えています。

Q 孫さんが育休に入るにあたり、どのように準備を進められましたか？

関係者で打ち合わせを行いました。実際にその時にならなければ分からないこともあるかと思いますが、何が起っても関係者で協力し、乗り切っていきたいと考えています。

Q 管理職に対し、今後部下から取得したいと相談があった場合のアドバイスは？

アドバイスではありませんが、誰にでも相談しやすい会社であればと考えます。



ご本人編
業務本部 管理部 人事総務グループ
株本 桂輔 さん

Q 今回なぜ育休を取ろうと思ったのでしょうか？取得を決めたきっかけは？

初めての子供ですので、あれこれ分からないながらも夫婦でともにしっかり育児と向き合いたいという思いは持っていました。また、上司より「人生であまりそう何回も経験できることはないでしょうし、家族にとって大切な時期ですから」と、お声をいただいたことも後押しとなりました。

Q 育休の期間はどのようにして決めましたか？

育休の期間を2回に分けて取得させていただいたのですが、1回目は妻の出産・病院退院後、里帰り中の産後ケアに注力するための期間、2回目は子供の自宅への受入れと、その後の生活に慣れるための期間としました。



Q 育休を取得してどうでしたか？

非常によかったです。育休の期間を通して、出産後の生活環境を段階的に整備することができました。

Q 育休中に苦労したことや思い出に残っていることがあったら教えてください。

1回目の育休の期間中、子供の夜間のお世話は私一人であっていたのですが、開始してちょうど10日目の夜に、これまでの人生で経験したことのないひどい倦怠感に襲われ、身体が完全に停止状態になりました。仮にその瞬間、子供に泣かれたら自分は何もしてあげられない、どうか泣かないで、と祈っていたところに、たまたま妻が起きてきて数時間だけ交代してくれました。その数時間の休息のおかげで症状は落ち着きなんとかお世話を再開できました。

Q 男性の育休取得率が低い理由は何だと思いますか？

世間一般的に男性の育休についての会社の体制整備は進んできてはいますが、制度があり取得したい気持ちがあっても、自身の不在時、および復帰後の仕事に不安があるなどして、実際に取得までいけないのではないかと思います。育休取得は上司をはじめ職場の理解とサポートがないとなかなか難しいと思います。

Q これから取得しようか迷っている人にアドバイスがあれば。

個人的感想ですが、出産と育児は想像をはるかに超えて大変です。育休取得を迷われている方は、早めの段階で自分の思いをもって上司に相談し、職場として育休中の業務体制をどうするかを考えていただくのが良いかと思います。

Q 自由な意見をどうぞ。

今回快く育休へ送り出してくださった上司と職場の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

配偶者編
H さん

Q 桂輔さんが育休を取得してどうでしたか？

非常によかったです。退院後に貧血の症状があり、夜泣き対応をすることが難しかったのですが、夫が育休を取得してくれていたおかげで、産後の身体を回復することができました。感謝しています。

Q 桂輔さんが育休を取得したメリットは？

夫が赤ちゃんのお世話を慣れることができたこと、私が産後の身体を回復することができたことです。夫が育休を取得することによって、育休が終わった後も大きな支障なく、3人での生活を始めることができました。

Q 今回は1か月の取得期間でしたが、どれくらいの期間取得してほしいですか？また、桂輔さんの育休取得のタイミングはどうでしたか？

退院後すぐの、2週間に1回目の育休を取得したのはタイミングが良かったです。赤ちゃんのお世話をどうやればいいのか二人とも分かっていない段階で、一緒に試行錯誤して育児に取り組むことができました。里帰りから自宅に戻る時期に2回目の2週間の育休を取得しましたが、家の中を育児ができる状態に整備することは一人では難しかったので、適切なタイミングだったと思います。

Q 桂輔さんが育休を取得したことで変化した価値観・考えはありますか？

男性も育休を取得してもらえたら助かる、程度の認識でしたが、男性も必ず育休を取得するようになって欲しいと思うようになりました。産後すぐの体調不良の状態でも、一人で新生児のお世話をすることは不可能だと思ったからです。

Q 自由な意見をどうぞ。

夫の上司である柏木さんをはじめ、会社の上司の方、同僚の方の理解があったからこそ、夫が育休を取得することができたと思っています。育休取得のためにご配慮をいただき、本当に感謝しております。おかげさまで母子ともに健康に過ごすことができています。ありがとうございました。



柏木リーダー 株本さん

「環境への取り組み」

南海化学のサステナビリティ

「地域との関わり」

化学品・製品安全

SDGs に対する取り組み

2015年9月、国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催されました。そこで「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が加盟193カ国の全会一致で採択され、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」が掲げられました。当社グループでもこの目標に取り組むことは、2030年までに世界全体で解決すべき、国連の持続可能な開発目標SDGsの達成に貢献すると考えます。



南海化学グループは、SDGsの達成に向けて、様々な取り組みを進めています。

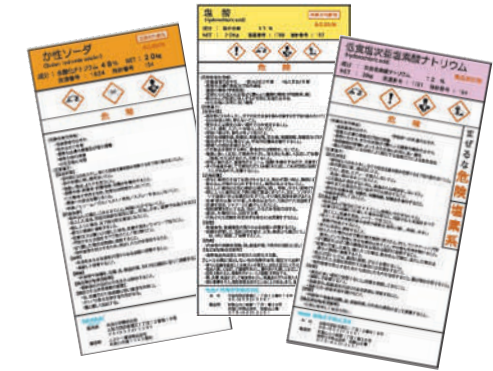
ジェンダー平等の実現に向けた取り組み (P13~16)	女性にとって働きやすい職場環境をつくることは、ジェンダーに関わらず、多様な背景をもつ社員全員にとって働きやすい職場となることと考えています。社員のニーズを把握し、仕事と育児の両立支援、多様な働き方への対応など様々な取り組みを進めています。	5 ジェンダー平等を 実現しよう 8 働きがいも 経済成長も 10 人や国の不平等 をなくそう
化学品安全情報 (P18)	製品・サービスを社会に供給する企業の責任として、法令及び社会倫理を遵守し、安全性や品質の高い製品を提供するために積極的に情報開示を行っています。	10 人や国の不平等 をなくそう 12 つくらし責任 をつかさどろう 14 海の豊かさを 保とう 15 陸の豊かさも 保とう
物流の事故防止安全対策 緊急時訓練の実施 工場を中心とした日常活動 安全管理 (P19) (P19) (P20) (P20)	従業員の健康管理施策の推進や、生産現場のリスクアセスメント推進、危険への感度を高める危険予知活動の実施など、従業員の安全や健康の確保に努めています。	3 すべての人に 健康と福祉を 4 質の高い教育を みんなに 8 働きがいも 経済成長も
衛生管理 (P21)	一人ひとりの総労働時間の削減、心身ともに健やかな生活の実現、ハラスメントのない職場づくりの取り組みを行っています。誰もが安全で健康的に働ける職場環境を整え、社員の働きがいを高めることで企業の持続的な成長を目指しています。	3 すべての人に 健康と福祉を 4 質の高い教育を みんなに 5 ジェンダー平等を 実現しよう 8 働きがいも 経済成長も
新型コロナウイルス 感染症対策 (P21)	新型コロナウイルス感染症への対応については、「社員の健康と安全」ならびに「顧客と社会のための操業維持」を最優先としつつ、政府の方針や自治体の指導に従い、日々変化する状況に鑑み、事業継続に向けた取り組みを実施しております。	3 すべての人に 健康と福祉を 8 働きがいも 経済成長も
社会との対話 (P22)	レスポンスフル・ケア活動に関わる情報・活動を社会に公表し、活動の透明性を高めるとともに活動レベルの向上を図っています。また、地域行事のボランティア活動や各コミュニティに積極的に参加し、社会とのコミュニケーションを深めています。	3 すべての人に 健康と福祉を 11 住み分けられる まちづくりを
コンプライアンス への取り組み (P22)	高い倫理観を持ち、社会から必要とされる人材の育成を目指し、人権の尊重、労働関係法令・就業規則の遵守、公正な取引、反社会的勢力との関係遮断などを定めた「南海化学グループ行動規範」を原則常時携帯し、行動するとともに、eラーニングによるコンプライアンス教育や役員を対象にした講習会にも取り組んでおります。	4 質の高い教育を みんなに 10 人や国の不平等 をなくそう 16 平和と公正を すべての人に
廃棄物の削減 化学物質排出量削減 (P28) (P28)	自らの事業活動に伴う環境負荷低減として、廃棄物、化学物質排出量の削減に努めています。	12 つくらし責任 をつかさどろう 14 海の豊かさを 保とう 15 陸の豊かさも 保とう
地球温暖化防止対策 環境対策投資 (P29) (P29)	工場において、省エネ課題を発見し、課題解決策を実行するとともに、その効果を検証して次の改善・実行することに取り組んでいます。また、自らの事業活動におけるCO ₂ 排出量を把握し、計画的に環境負荷を低減しています。限られた地球資源のなかで持続可能な社会を形成していくために、環境法規の遵守に努めています。	7 気候変動に 適応しよう 11 住み分けられる まちづくりを 13 気候変動に 適応しよう
大気汚染防止 水質汚濁防止 (P30) (P30)	自らの事業活動に伴う環境負荷低減として、大気汚染物質、水質汚濁物質の削減に努めています。	12 つくらし責任 をつかさどろう 14 海の豊かさを 保とう 15 陸の豊かさも 保とう

化学品安全情報

安全性や品質の高い製品を提供するために情報開示を積極的に行なっています。また品質改善活動を進め、製品の安全性確保及び品質向上に努めています。

品質管理活動

品質マネジメントシステム (ISO9001) に基づき、品質管理の仕組みや製品の品質改善活動を計画的に進めています。ISO9001:2015年度版への移行を早期に完了し、従来のマネジメントに加えてリスクに基づく改善を取り入れ、より安定した品質と供給体制の実現に向け活動しています。



適正表示への取り組み

改正労働安全衛生法に基づき、容器・包装製品への表示内容について見直しを行い、同法及び施行規則に準じた表示項目について視認性の高い表示方法とラベルに変更しました。適切に危険有害情報を伝えるため、よりわかりやすい安全情報の提供に努めています。

安全データシート (SDS※)

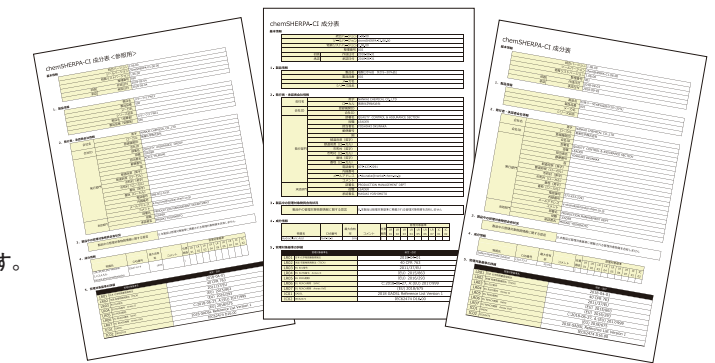
化学製品を安全に使用していただくために、SDSを作成し、当社ホームページに掲載しております。また危険有害性情報、法規制に対応した変更など、常に新しい情報を掲載できるよう努めております。※JISZ7253:2019への対応を完了しております。



安全データシート (SDS)

ChemSHERPA※への対応

製品含有化学物質の情報伝達共通スキーム「ChemSHERPA」について、南海化学グループの全製品について対応可能としました。また、対象リストの改訂に係る更新も随時対応しております。



JIS認証&ハラール※認証取得と更新

JIS認証 : 2019年4月 アドブルー製品
ハラール認証 : 2020年2月 酢酸ナトリウム製品
皆様に安全・安心に使用して頂くため多様な認証を取得してまいります。



用語解説 SDS…………… Safety Data Sheetの略。安全データシート。化学品に関する事故の防止、また、管理をするため事業者が化学物質や製品を他の事業者に出荷する際に、その使用者、取引先に対して、その化学物質に関する情報を提供するためのもの。
ChemSHERPA…… 製品に含有される化学物質情報を川上企業から川下企業までサプライチェーン全体で適正に運用するため、経済産業省主導で2015年10月にリリースされたデータ作成支援ツールの名称です。
ハラール(HALAL)… イスラムにおいて「合法的なもの、許されたもの」という意味の言葉です。ムスリム(イスラム教徒)が口にすることはハラールであるべきだとされており、イスラム教徒にとって、食品や飲料がハラールであるかどうかはとても重要なことです。

「地域との関わり」

物流安全

物流の事故防止安全対策

製品輸送時の事故防止と万一の事故発生時に備え教育・訓練を行なっています。

イエローカード[※]の提供

弊社の従業員だけでなく、物流委託業者にも、輸送上の事故防止と万一の事故発生時における被害を最小限にするために定期的に、教育・訓練を行い、物流安全の強化を図っています。危険有害性を有する化学物質を輸送する場合は、運転手に「イエローカード」を提供して、緊急時に迅速に対応できるように備えています。



クロルピクリンの輸送

クロルピクリンは刺激性の強い農薬であるため、輸送には細心の配慮を行っています。万一漏洩したときに備えて、輸送時の事故の被害を最小限に食い止めるべく、メーカー相互に協力し合う防災ネットワークを構築しており、また年に一度、協定会社ネットワーク機能点検のための電話・FAX連絡による模擬訓練、及び各社防災委員の代表による情報交換会を開催し、クロルピクリン災害防止の取り組みを強めています。



物流安全輸送会議

月に一度、物流会社の担当者を招集し、物流安全輸送会議を開催しています。事故事例を検証し、水平展開しています。また、危険作業等の洗い出しを行い、物流事故ゼロを目指しています。



用語解説 イエローカード… イエローカードとは、化学製品を輸送する乗務員が、事故時等において乗務員あるいは近くの代行者が迅速な対応を図ることが出来るように、事故時の措置及び連絡・通報先等を記載した緊急連絡カード(黄色の用紙)の通称です。記載項目には、事故時の応急措置、緊急通報内容、緊急連絡先、漏洩飛散、火災、発火時の処置法、及び救急措置法等が記載されています。

「地域との関わり」

保安防災

緊急時訓練の実施

万一、産業事故あるいは大規模地震などの緊急事態が発生した場合に備え、定期的に防災訓練を行い、人的安全の確保、隣接地域への影響を最小限に止めるべく、円滑な防災活動を行えるよう体制を整えています。緊急時処置対応が速やかに行えるように、ISO14001環境マネジメントシステムにその手順を定めています。

火災・災害への対応

各工場では、火災に備えて消火栓及び化学物質用の消火器を設置しています。防災用資器材の常時確保、高圧ガス防災訓練、及び手順の定期的な見直しを行って、安全と環境に重大な影響を与えないよう、緊急処置訓練を継続して実施しています。また、市民団体、関係官庁や業界との合同防災訓練にも積極的に参加し、防災に対する意識の向上を図っています。



有毒ガス漏洩を想定した訓練

化学物質の漏洩への対応

有害化学物質が漏洩したときに備えて処理手順を整備するとともに、空気呼吸器の装着を含めた訓練を実施しています。

事業継続計画 (BCP) の策定

大規模災害発生時にお客様へ安定的に商品を供給するため、BCPを策定しました。災害発生時には二次災害防止に努め、地域社会・行政・取引先企業等と連携して地域の復旧に努めます。また、大震災によるライフライン停止や、各拠点での帰宅困難者の発生を想定し、備蓄品の手配・管理を行っています。今後も実効性を高めるために、継続的な訓練を実施し、体制を整備し向上させていきます。



「地域との関わり」

労働安全衛生

安全衛生組織表



工場を中心とした日常活動

自主的な安全活動の推進に取り組んでいます。

5S活動[※]/ 3S強化推進

5S活動のうち、3S"整理・整頓・清掃"活動を強化推進する事で安全で清潔感のある快適な職場作りに取り組んでいます。

5S活動を行う事で労働災害撲滅の一助となる様、継続して取り組んでいます。

危険予知活動 (KY)

作業前に危険を話し合い、対策を決め、KY表に記入、作業員全員が確認の後、各自行動目標を立て、安全作業に臨んでいます。作業の状況を描いたイラスト図を使って、危険予知訓練を行い、作業において、常に何か危険が潜んでいないか考える習慣を持たせるようにしています。安全を先取りする為、危険予知活動をますます活性化させていきます。

ヒヤリハット/ 改善提案制度

労働災害を未然に防ぐ活動として、ヒヤリハットや改善提案などの制度を導入し危険箇所の改善と危険行動の防止に努めています。

当社では、優れた提案や提案件数を表彰する表彰制度を導入する事でより多くの提案を得る事に努めています。

安全パトロール

各工場では毎月1回、各工場のトップが巡回して日常の作業では気づきにくい危険・不安全を解消するために安全パトロールを実施しています。



社長安全パトロール



安全管理

従業員の作業安全を確保するために安全対策に取り組んでいます。

安全衛生委員会

各工場では毎月1回、協力会社も参加し、安全衛生委員会を開催しております。日常安全衛生管理における相互情報交換、職場意見の聴取等、安全について報告・討議を行い、安全衛生の向上に努めています。

OSHMS[※]の活動

土佐・和歌山工場で導入した予防保全型の労働安全衛生マネジメントシステムは、危険要因の解消に成果をあげています。従業員みずから行うリスク抽出と改善により効果的な対策に結びついています。



安全衛生委員会



用語解説 5S活動…… 整理、整頓、清潔、清掃、躰の5つの「S」を推進し、活動すること。
OSHMS…… Occupational Safety and Health Management Systemの略。事業者が労働者の協力の下に「計画(Plan)・実施(Do)・評価(Check)・改善(Act)」の一連の課程を定めて、継続的な安全衛生管理を自主的に進めることにより、労働災害の防止と労働者の健康増進、さらに進んで快適な職場環境を形成し、事業場の安全衛生水準の向上を図ることを目的とした安全衛生管理の仕組みです。

「地域との関わり」

労働安全衛生

Message

和歌山工場 無機製造部長
佐野 学



(和歌山)工場では、無事故・無災害達成に向けて工場における設備投資や修繕、撤去工事について、各製造部、保全部の管理職を中心としたメンバーで「設備審議会」を開催し、安全対策や法令遵守を審議し、安全管理に努めています。また、工事業者には、冊子「安全衛生心得」を配布し、当社の取扱物質の危険有害性・取り扱い上の注意・安全対策等や構内ルールを周知しています。和歌山工場においては、今年度の安全衛生スローガンとして「気を抜くな!昨日良くて今日は別 ゆるむ心に潜む事故」を掲げて、工場従業員に対しては安全衛生委員会にて工場で起こりうる事故を想定したイラストを使っての危険有害要因を洗い出す危険予知トレーニング等を実施して安全に対する意識の向上に努めています。ご安全に!

衛生管理

従業員の健康維持、増進と快適な職場環境形成を促進しています。

ストレスチェック

2021年度から全従業員を対象にストレスチェックを実施しております。メンタルヘルスの重要性を踏まえ、メンタル不調者の発生を防ぐとともに、不調の兆候を早期に発見し、予防的な対応を実施するなか、より働きやすく健康的な職場環境の実現に向け、取り組んでおります。

健康管理の推進

年に1度の定期健康診断や、化学物質等を取り扱う業務に従事する従業員に対して年に2度特殊健康診断を実施しております。健康診断後、希望者には産業医との面談を行い、健康についての指導を行っております。また産業医による月1回の衛生講話や、保健指導員による健康相談を実施する等、従業員の健康管理を推進し、疾病予防に努めています。

安全教育の推進

安全管理の手法や労働安全マネジメントシステムの考え方などについて社内報で定期的に取り上げて解説しています。また危険予知(KY)のトレーニングや事故事例を題材にした研修など、現場の安全管理スキルの向上に努めております。

衛生講話

健康管理及び増進を目的として、月次で開催する安全衛生委員会において時宜を捉えたテーマで産業医による衛生講話を開催しております。

2021年度以降、新型コロナウイルス感染症に関する最新情報の提供や対応策をはじめ、熱中症や生活習慣病といった身近なテーマに関する解説や指導を受けています。

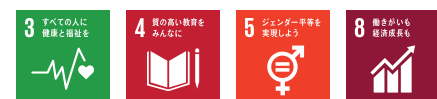
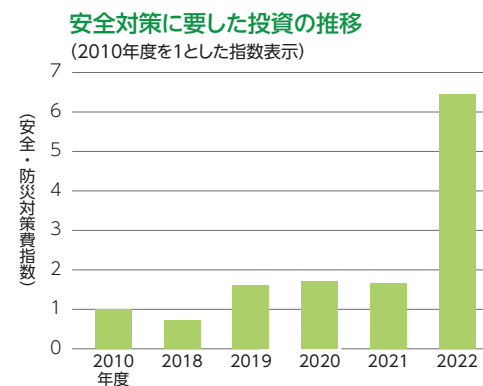
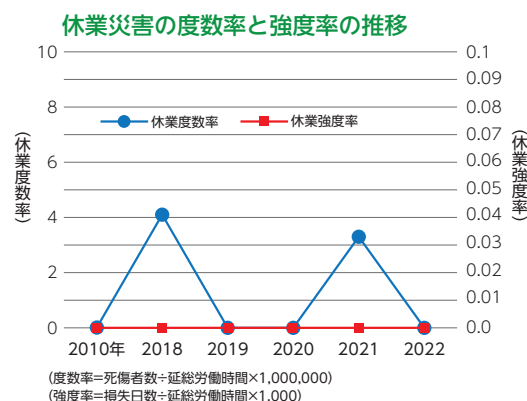
メンター制度

2020年4月より新制度「メンター制度」を導入。近年問題となっている若年者早期離職を食い止め、企業としての優秀な人材を確保するために本メンター制度を導入いたしました。

2021年度以降、メンター選出基準を改定するとともに、メンター候補者の事前教育を徹底し、メンター相互の意見交換などにも積極的に取り組み、新入社員に寄り添い、成長を支援する良き相談相手となるように制度の充実に努めております。

新型コロナウイルス感染予防対策

新型コロナウイルス感染症は2023年5月に5類相当へと指定変更となり、マスク着用も自主的な判断に委ねられるようになりましたが、全社全体で手指の消毒励行をはじめとした感染予防対策を実施するとともに、ワクチン接種にかかる特別休暇制度にも継続して取り組んでおります。



「地域との関わり」

社会との対話

環境・社会報告書の発行

2001年より毎年「環境・社会報告書」を発行し、環境に関する取り組みについて紹介しています。環境活動を多くの方にご理解いただくため、ホームページにも掲載しております。
<https://www.nankai-chem.co.jp/sustainability/environmental-society/>



コミュニティへの参加

地域社会との交流として、地域主催行事のボランティア活動と各コミュニティに積極的に参加して交流を深めています。

第74回わかやま商工まつりでは当社社員2名が優良従業員として表彰されました。他に、事業所周辺の浄化、清掃等の地域環境美化運動にも定期的に参加し、企業活動に対する正しい理解を得られるように努めています。



工場周辺の美化活動

和歌山工場 オープンカンパニー 実施

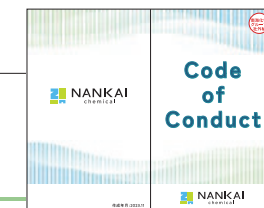
「わかやま産業を支える人づくりプロジェクト」の一環で、工業高校生を対象とした支援活動として、2023年6月19日(月)に和歌山工業高等学校化学技術科3年生34名を招待し、和歌山工場の無機製造部門と研究開発部門の見学、及び当社の事業概要や仕事内容の紹介を行いました。



「地域との関わり」

コンプライアンス 公正な商取引

南海化学グループ役職員行動規範



南海化学グループ役職員行動規範小冊子「Code of Conduct」

南海化学グループ役職員行動規範

南海化学グループは、事業活動を行う上で、法的要求事項の遵守・職場環境の改善・環境保全の推進・品質向上等を目指し、健全で透明性のあるグループ企業として、高い倫理観を持って社会に貢献してまいります。

コンプライアンス遵守を実践するために、南海化学グループにおける方針・基準を定めた小冊子(Code of Conduct)を全従業員に配布し、従業員が原則常時携帯することで、その周知徹底を図っています。今後も小冊子(Code of Conduct)を活用し、更なるコンプライアンス遵守に取り組んでまいります。

コンプライアンス教育

2022年度階層別集合研修よりコンプライアンス研修を実施してきており、2022年度、2023年度で既に55名が受講しております。また、全社員向けのeラーニングにも随時取り組み、2023年8月には「秘密保持」に関して対象者276名全員が受講いたしました。

技術流出防止のための情報管理研修

重要情報である各種技術情報の流出防止について、大阪府警外事局職員の方による講義を本社、各拠点をWebで繋いでしました。全社で92名の職員が受講し、参加者は熱心にメモをとるなど、事例に基づく防止策を学びました。



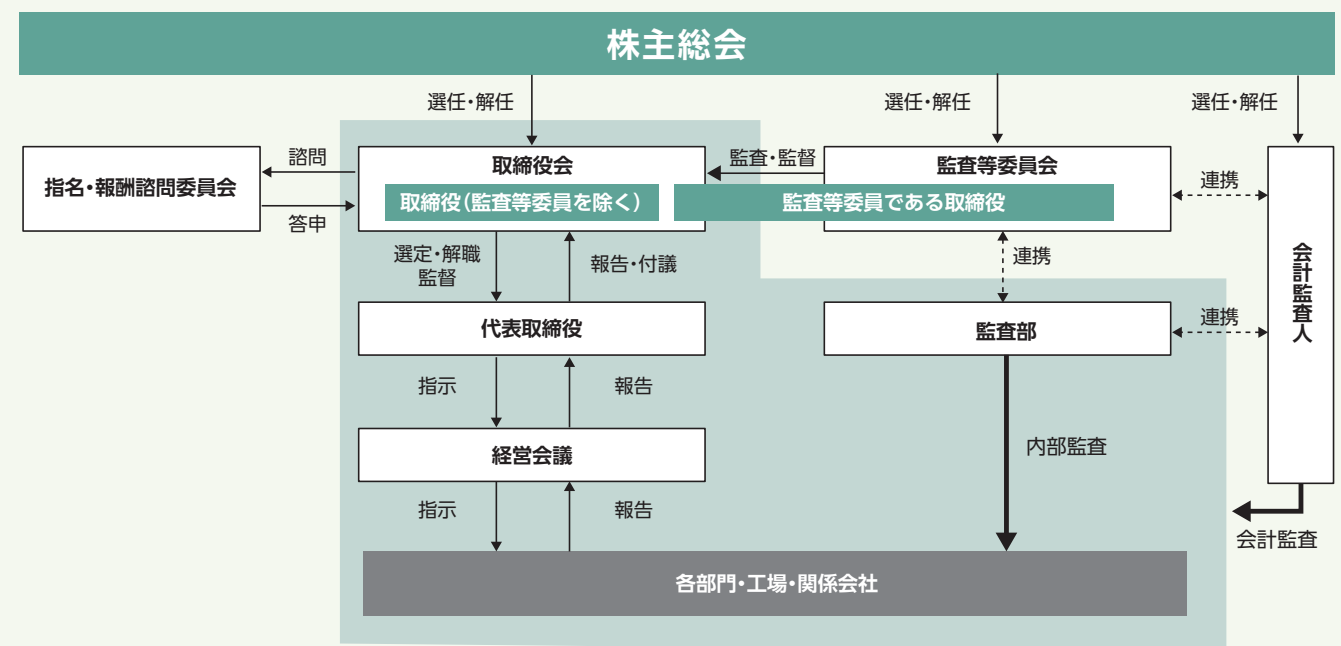
「ガバナンス」 コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、全てのステークホルダーの皆様を重視した経営を行い、皆様にご満足いただき、社会に貢献していくことをコーポレート・ガバナンスの基本方針としております。効率的かつ公正で透明性の高い経営及び経営監視機能の強化を目指すとともに、法令遵守の徹底及び迅速かつ正確な適時開示により、株主・顧客・社会・従業員等のステークホルダーから信頼されることにより、継続的に企業価値を高めてまいります。

コーポレート・ガバナンスの強化

2018年4月	2018年6月	2020年6月	2020年7月	2023年7月
▶執行役員制度導入	▶監査役会設置 社外監査役を2名増員し3名体制へ 役員退職慰労金制度廃止	▶監査等委員会設置会社へ移行 監査役を取締役監査等委員へ移行するとともに、社外取締役監査等委員を1名増員し4名体制へ	▶内部統制システムに係る基本方針制定	▶指名・報酬諮問委員会設置 社外取締役を委員長とし、かつ構成員の過半数を社外取締役として、取締役等の指名・報酬に関して審議し取締役会に答申する委員会を設置



役員紹介 (2023年6月28日現在)



取締役執行役員 谷崎 彰男 社外取締役 堀尾 知樹 取締役常務執行役員 室井 真澄 取締役監査等委員 上川 圭一 社外取締役監査等委員 伊集院 薫 社外取締役監査等委員 海部 行延
社外取締役監査等委員 橋山 洋子 取締役執行役員 吉門 孝芳 代表取締役社長執行役員 菅野 秀夫 取締役常務執行役員 金居 成康

企業統治の体制の概要

当社は、会社法に基づく機関として、株主総会、取締役会、監査等委員会及び会計監査人を設置しております。また、取締役の選解任及び報酬等に関する基本方針及び内容等に関する取締役会からの諮問事項を協議し答申する機関として指名・報酬諮問委員会を、取締役会の委嘱を受けた事項その他経営に関する重要事項の協議機関として経営会議を設置しております。また、適切な業務運営並びに健全な発展に資することを目的として、代表取締役社長執行役員直轄の監査部を設置しております。

取締役及び取締役会

当社の取締役会は、取締役(監査等委員である取締役を除く)6名(うち社外取締役1名)及び監査等委員である取締役4名(うち社外取締役3名)により構成され、代表取締役が議長を務めております。取締役会は、毎月1回の定例取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しており、経営に関する基本方針、法令及び定款で定められた事項及び会社経営・グループ経営に関する重要事項等取締役会規則にて定めた事項を決定するとともに、取締役の職務執行を監督しております。



経営会議

経営会議は、業務執行取締役及び執行役員6名で構成し、指名された者、社外取締役及び監査等委員である取締役が任意に出席できるものとしております。経営会議は月1回以上開催し、意思決定及び業務執行のスピードアップを目的として、取締役会の委嘱を受けた事項その他経営に関する重要事項の協議を行っております。

監査等委員及び監査等委員会

監査等委員会の監査等委員は取締役常勤監査等委員1名と社外取締役監査等委員3名の計4名で構成されております。監査等委員会は、原則として毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時に開催しております。監査等委員会は、経営執行を常時監視し、法令遵守、財務報告に係る内部統制システムの整備・運用、取締役の職務執行の適法性並びに妥当性を監査いたします。また、監査等委員会は、監査部及び会計監査人と定期及び随時に情報交換を行い、コンプライアンスやリスク管理に関して緊密に連携しております。



指名・報酬諮問委員会

指名・報酬諮問委員会は、社外取締役監査等委員3名と代表取締役1名の計4名で構成されております。指名・報酬諮問委員会は原則として年4回以上開催し、取締役会の諮問に応じて、取締役の選任及び解任に関する事項、代表取締役の選定及び解職、取締役の報酬等に関する方針や内容に関する事項、その他取締役会から諮問を受けた事項等を協議し、取締役会に答申いたします。同委員会の設置趣旨に鑑み、取締役会においては、その意見を最大限尊重することを原則としております。



監査部

監査部は部長含め2名で構成しております。当社及び当社グループの内部監査を実施し、その結果については代表取締役社長執行役員へ報告するとともに、定期的に取り締役に報告しております。また、監査部は、監査等委員会において監査計画、職務遂行状況及び監査結果などについて報告し、監査等委員と意見及び情報交換を行っております。さらに会計監査人とは、会計監査人の往査時に適宜意見交換を行うことにより、相互に連携を図っております。

「環境保全」

環境と安全の基本理念と基本方針

2022年度実績

環境と安全の基本理念と基本方針

《基本理念》

南海化学グループは、「化学品事業を通じて地球環境と豊かな社会の創生に貢献する」の企業理念のもとに事業活動を行っています。「地球環境保護と安全・健康確保」においては、高い倫理観と自主管理・自己責任を基本とする「レスポンシブル・ケア※」の原則に従って、事業活動の展開に努めます。

《基本方針》

- 1 環境・安全・健康面に配慮した諸施策を実施し、環境の保護並びに従業員、地域住民の安全・健康を確保する安定操業管理を行います。
- 2 地球環境保全のため、省エネ・省資源・廃棄物の削減等再資源化・リサイクル化について、合理的な対策を推進します。
- 3 新製品はその研究開発段階から環境・安全・健康面の検討を行い、より安全な製品・技術の開発に努めます。
- 4 製品の安全な使用と取り扱いに関し、顧客サービスのための調査研究を推進し、必要な情報を提供します。
- 5 製品や操業に関する行政及び地域住民の関心に注意し、正しい理解が得られるよう、コミュニケーションに努めます。
- 6 国際的な環境規制の遵守及び環境保全と安全・健康の確保に積極的に対応します。

マネジメントシステムの活用による継続的改善

認証を取得しているISO9001、ISO14001などのマネジメントシステムに加え、OHSMSを活用して、品質・安全・健康・環境などの観点で、弊社のパフォーマンスを継続的に改善する活動に取り組んでいます。

<ISO9001>

- 1998年 11月 和歌山工場認証取得
- 1999年 8月 土佐工場認証取得
- 2016年 12月 和歌山工場2015年版への移行完了
- 2018年 8月 土佐工場2015年版への移行完了

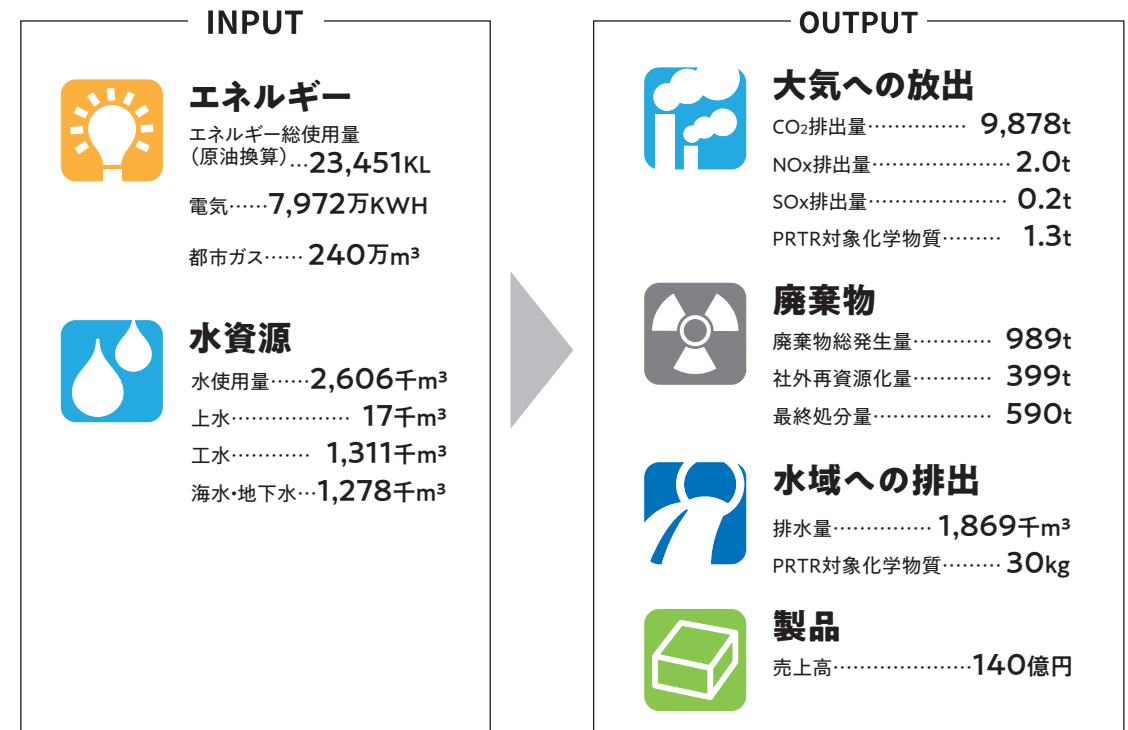


<ISO14001>

- 2000年 3月 和歌山工場認証取得
- 12月 土佐工場認証取得
- 2018年 2月 和歌山工場2015年版への移行完了
- 2018年 8月 土佐工場2015年版への移行完了

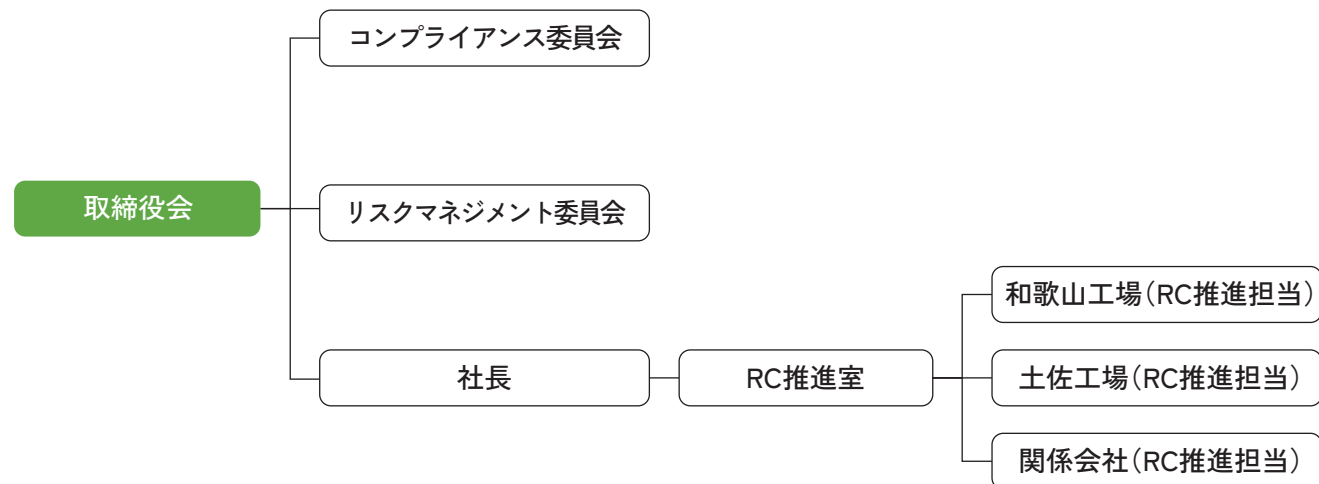


エネルギー・資源の利用状況



CSR、RC推進体制

(2023年4月1日現在)



用語解説 レスポンシブル・ケア……化学物質に関連する企業が、自己決定・自己責任の原則に基づいて、化学物質の開発・製造から消費・廃棄に至るすべての段階において、「安全・環境・健康」に対する自主的な配慮を行おうとする活動

「環境保全」

環境と安全の基本理念と基本方針

2022年度実績

2022年度活動目標と結果、2023年度活動目標

実施項目	2022年度			2023年度
	年度目標と計画	結果	評価	目標と計画
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山工場 電力原単位低減(電解槽膜更新、省エネ型冷凍機更新等)/都市ガス削減(スチームドレン回収、トラップ更新等) ・土佐工場 ガス漏洩検知器更新 エネルギー原単位改善(2021年度比1%改善) 	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山工場 エネルギー原単位 2021年度比 0.2%悪化 ・土佐工場 エネルギー原単位 2021年度比 1.1%悪化 ガス漏洩検知器更新実施 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山工場 電力原単位低減(電解槽膜更新)/都市ガス削減(スチームドレン回収、HE-401 復旧等) ・土佐工場 高晒乾燥設備ガス漏洩検知器設置 エネルギー原単位改善(2022年度比1%改善)
保安防災	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応訓練の実施(夜間訓練含む) ・労働安全 MS システムの維持 ・リスクアセスメントによるリスク低減活動 <ul style="list-style-type: none"> — 不要配管撤去、老朽配管更新、及び表示化 — 各貯槽アンカーボルト修繕 — 老朽タンク類の更新 — 変更設備浸水対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づき、緊急時対応訓練を実施(夜間訓練含む) ・地震時避難訓練・消火器訓練・緊急通報訓練 など ・リスク低減対策実施 ・土佐工場 不要配管撤去、老朽配管更新、表示化(適時実施) CP 排液濃縮沈降槽・分離槽・1号製品貯槽更新 高晒動力・電灯分電盤浸水対策 など ・和歌山工場 老朽化対策、緊急設備更新、大規模地震対策の実施 昇降タラップ背かご取付 棚類、転倒対策実施 など 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応訓練の実施(夜間訓練含む) ・労働安全 MS システムの維持 ・リスクアセスメントによるリスク低減活動の維持 ・不要配管撤去、老朽配管更新、及び表示化 ・各貯槽アンカーボルト修繕 ・老朽タンク類の更新 ・変更設備浸水対策
労働安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・労働安全 MS システムの維持 ・リスクアセスメントによるリスク低減活動の維持 ・安全衛生委員会の定期実施(1回/月) ・環境・安全パトロール定期実施による改善実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクアセスメントに基づく改善活動とマネジメントレビューを実施 ・リスクアセスメントによるリスク低減活動の維持 和歌山工場 24件 土佐工場 10件 ・安全衛生委員会の定期実施(1回/月) ・環境・安全パトロール定期実施による改善実施 和歌山工場 57件 土佐工場 37件 ・3S活動継続実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・労働安全 MS システムの維持 ・リスクアセスメントによるリスク低減活動の維持 ・安全衛生委員会の定期実施(1回/月) ・環境・安全パトロール定期実施による改善実施 ・工場長パトロール実施による改善実施 ・衛生管理者パトロールによる改善実施 ・場内 3S 活動の推進による美化活動実施
物流安全	<ul style="list-style-type: none"> ・物流安全輸送会議の定期実施(1回/月) ・物流安全に関する改善活動の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・物流安全輸送会議の定期実施 「自動車運送事業者における健康起因事故の予防」について 健康管理・衛生管理について、研修会を実施 ・各ローリータンク塗装・硫酸バンド出荷用ポンプ更新 ・各ローリー出荷・受入設備点検実施(1回/月) ・ローリー出荷用ホース仕様の見直し実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・物流安全輸送会議の定期実施(1回/月) 各社で発生した事故・ヒヤリハット事例を共有、同種事故再発防止を図る ・品質及び数量問題により積み戻り及び再配送を防止する ・各ローリー出荷・受入設備点検実施(1回/月)1回/月実施 ・ローリー出荷設備雨天時対策 工事発注
化学品・製品安全	<ul style="list-style-type: none"> ・ChemSHERPAへの完全対応 ・SDS の適宜改訂 ・品質管理上のクレーム、問題点、不都合をチェック ・製品トラブルについて、内容、原因等の分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・ChemSHERPA への対応該当物質無し ・SDSの適宜改訂(南水 TCCA 錠剤英語版、全製品2019年度版移行、JP 労安法改正によるNMP 追加) ・品質管理上のクレーム、製品トラブルについては原因調査と再発防止を徹底 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ChemSHERPAへの完全対応 ・SDSの適宜改訂 ・品質管理上のクレーム、問題点、不都合をチェック ・製品トラブルについて、内容、原因等の分析

廃棄物の削減

廃棄物処分量を削減するために、廃棄物発生量の抑制(リデュース)、再利用(リサイクル)及び有効利用(リユース)の3Rと産業廃棄物のゼロエミッション最終処分量の削減を目指しています。また、産業廃棄物の処理は、産業廃棄物管理表(マニフェスト)制度に基づく日常管理を行っています。

ゼロエミッション※

事業活動で発生する廃棄物の100%再資源化・再利用化を図るゼロエミッションは、和歌山工場・土佐工場を取り組んでおります。



分別リサイクル

工場では、廃棄物を適正に分別しています。分別した廃棄物は可能な限り再利用、再資源化に努め排出量や最終処分量を削減しています。

リユース

液状製品のポリタンクは顧客から回収し、社内で洗浄の上、再使用をすることで廃棄物が出ないものづくりを推進しています。



化学物質排出量削減

ISO14001により、水質汚濁物質の継続的削減を実践し環境負荷の低減に取り組んでいます。

PRTR※

人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、事業所から環境(大気、水、土壌)へ排出される量及び廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を把握し、排出量の削減に継続的に取り組んでおります。弊社では9物質のPRTR該当物質を取り扱っておりますが、排出・移動を確認しているのは、以下の3物質です。

政令番号	物質名称	年度	環境排出量			移動量
			大気	水域	合計	
285	クロロピクリン (トリクロロメタン)	2022	1300	0	1300	0
		2021	1400	0	1400	0
		2020	1500	0	1500	0
		2019	1400	0	1400	0
		2018	1180	0	1180	0
		2017	500	0	500	0
405	ホウ素及びその化合物	2022	0	30	30	0
		2021	0	30	30	0
		2020	0	30	30	4
		2019	0	30	30	4
		2018	0	30	30	4
		2017	0	30	30	4
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	2022	5	0	5	0
		2021	5	0	5	0
		2020	5	0	5	0
		2019	5	0	5	0
		2018	5	0	5	0
		2017	5	0	5	0

(単位:kg/年度) 「移動量」:廃棄物処理業者へ処理委託した量 和歌山・土佐工場で取り扱う代表物質を記載しています。



用語解説

ゼロエミッション…… 異なった業種間協同で地球の限られた資源の使用効率を高め、廃棄物(エミッション)がゼロになることを目指す。
PRTR…… Pollutant Release and Transfer Registerの略。有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

「環境保全」

数字で報告する南海化学の環境保全

2022年度実績 (2022年4月から2023年3月集計データ)

Message

土佐工場 品質技術部長
鶴見 康治



今年度の環境重点目標として「更なる変革に挑戦し、持続可能な社会を目指す」を掲げ、電解槽膜、省エネ型冷凍機、クロロビクリン製品貯槽など老朽化した設備を計画的に更新し、製品タンクの遮熱塗装やスチームドレン回収等に取組み、環境負荷の低減に取り組みました。また、土佐工場では新たな環境リサイクル事業の「高塩素含有無機資源のセメント資源化を促進する脱塩事業」を2023年10月から開始するにあたり、脱塩設備と水処理設備の設備化を進めるとともに、運転にかかわる必要な資格取得等の従業員教育を実施してきました。当該脱塩設備で処理したりリサイクル原料を使用すると、通常の天然資源セメント原料よりも焼成時のCO₂排出量が30%削減され、セメントメーカーのCO₂削減とリサイクル原料の使用を後押しすることにより、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。

地球温暖化防止対策

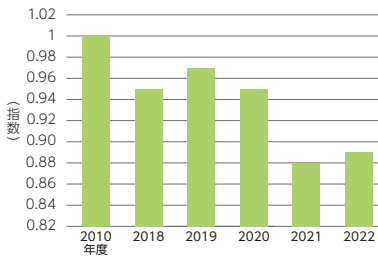
地球温暖化の原因となるエネルギー起源の二酸化炭素排出を削減するための中長期目標を設定して様々な省エネルギー対策に取り組んでいます。

省エネルギー推進と炭酸ガス削減の取り組み

エネルギー原単位の低減と炭酸ガス削減のため、最新の省エネ機器への更新などを推進しております。

エネルギー原単位の推移

(2010年度を1とした指数表示)
エネルギー原単位=消費エネルギー-原油換算(kl)+売上金額(百万円)



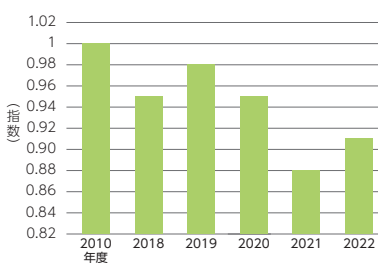
電解槽の更新



遮熱対策塗装の推進

CO₂排出量の削減

(2010年度を1とした指数表示)
CO₂発生量(含買電、炭素換算)原単位=
CO₂発生量(含買電、炭素換算)(トン)+売上金額(百万円)



冷却装置の更新



クーリングタワーの更新



環境対策投資

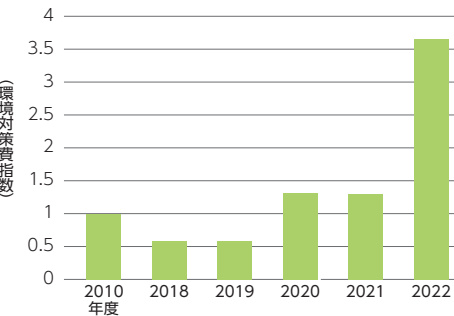
環境負荷低減や省エネルギーのために継続的に投資を行っております。

環境対策

老朽化した除害塔や排ガスラインを更新し、環境負荷低減に取り組んでいます。また有害な化合物や排液が社外に漏洩しないよう、監視を強化しています。

環境対策に要した投資の推移

(2010年度を1とした指数表示)



ガス漏洩検知器



監視・分析作業



大気汚染防止

ISO14001により、使用燃料と製造排ガスの継続的削減を実践し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

大気汚染物質の削減

使用燃料を削減する事でSOx※(硫黄酸化物)、NOx※(窒素酸化物)及びばいじん※の削減につなげています。

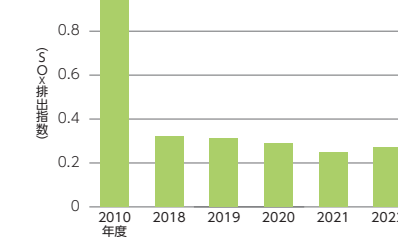
今後も燃料使用量の低減、燃料の転換、燃焼バーナーの改善などを行い、排出量の低減に努めていきます。

除害効率の高いガス処理設備への更新や除害塔を増設し、ばい煙の大気放出量の削減に取り組んでいます。



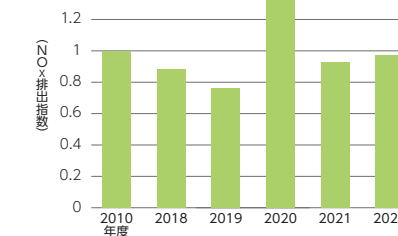
SOxの削減

(2010年度を1とした指数表示)



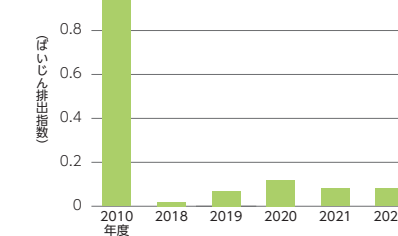
NOxの削減

(2010年度を1とした指数表示)



ばいじんの削減

(2010年度を1とした指数表示)



ボイラー設備



活性炭設備



回収設備

水質汚濁防止

ISO14001により、水質汚濁物質の継続的削減を実践し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

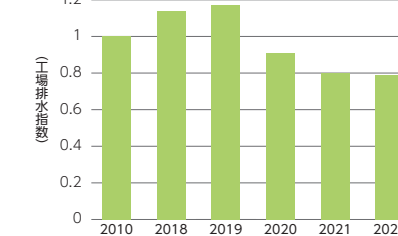
COD※の低減

工場排水処理設備の処理技術向上を図り、公共水域へのCOD(化学的酸素要求量)など水質汚濁物質の負荷量を低減しています。



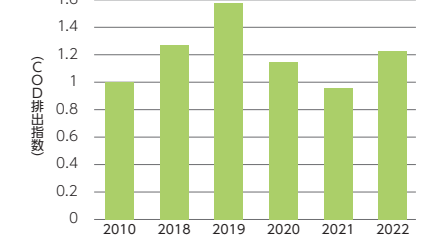
工場排水の削減

(2010年度を1とした指数表示)



COD排出の削減

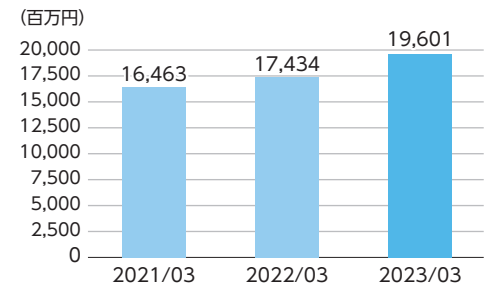
(2010年度を1とした指数表示)



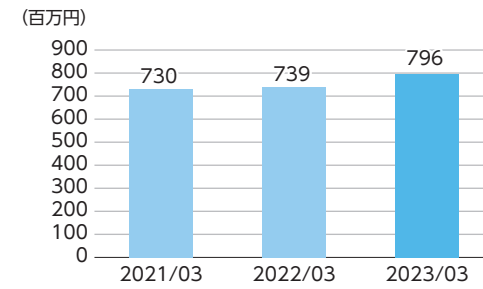
用語解説
SOx …… 酸化硫黄(SO)、二酸化硫黄(SO₂)など硫黄酸化物の総称。大気汚染の原因となる。
NOx …… 一酸化窒素(NO)、二酸化窒素(NO₂)などの窒素酸化物の総称。自動車の排ガスや工場設備などから発生し、大気汚染の原因となる。
ばいじん …… 工場の煙突の煙などの中に含まれるすすなどの微粒子。
COD …… 化学的酸素要求量(Chemical Oxygen Demand)水の汚れを表す指標のひとつ。水中の有機物を酸化剤によって酸化するのに消費される酸素量。大きいほど汚染度が高いことを表す。

経営成績

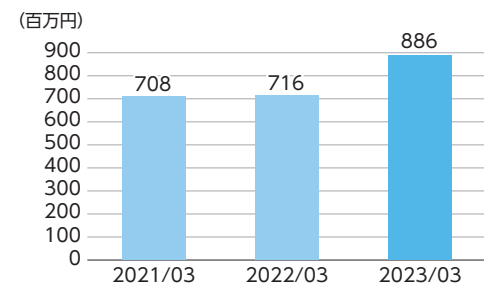
売上高



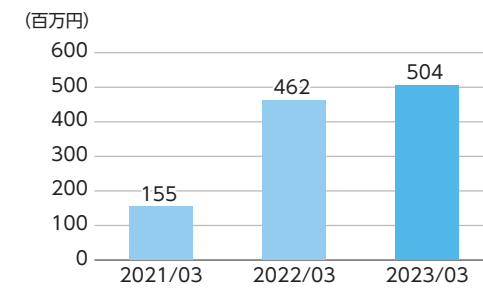
営業利益



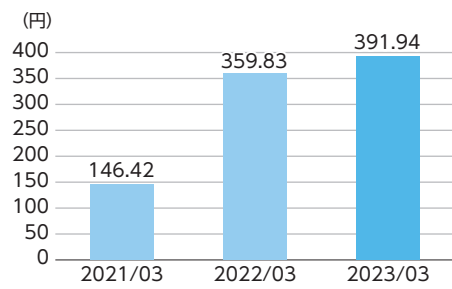
経常利益



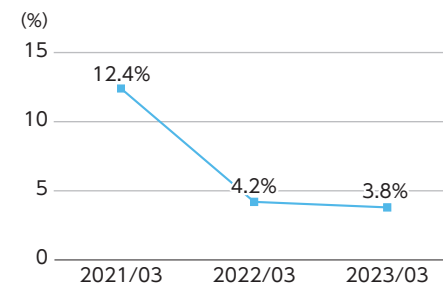
親会社株主に帰属する当期純利益



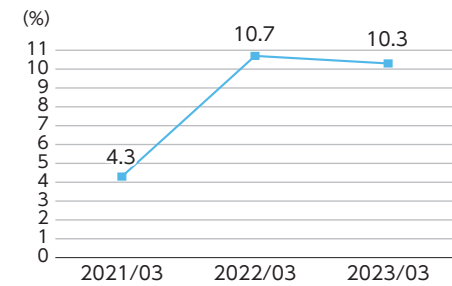
1株当たり当期純利益



配当性向

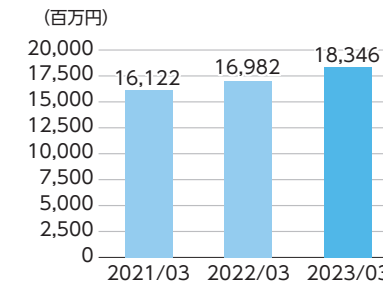


ROE(自己資本当期純利益率)

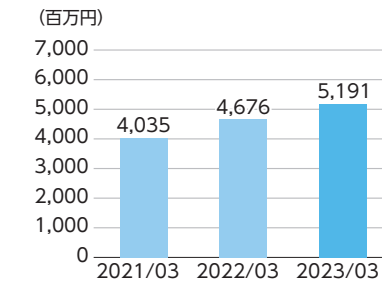


財務状況

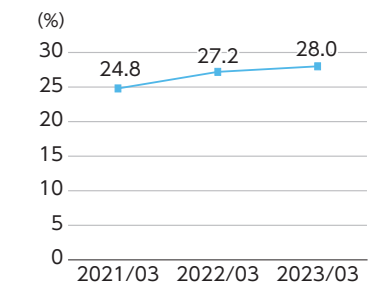
総資産



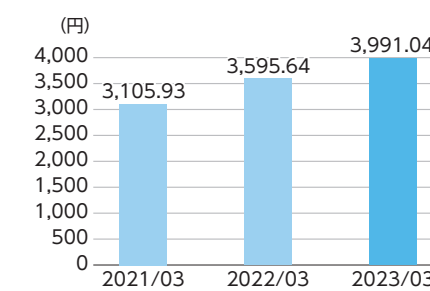
純資産



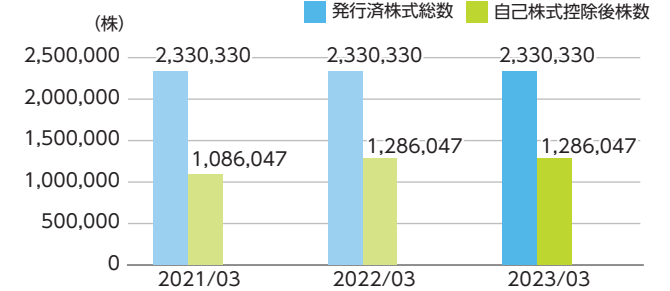
自己資本比率



1株当たり純資産

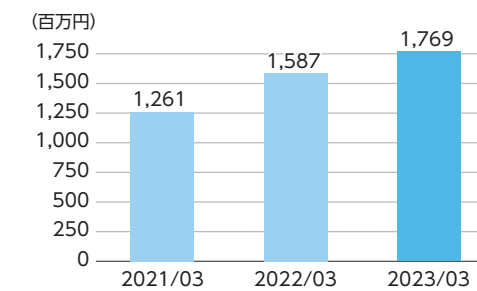


発行済株式総数(自己株式控除後株数)

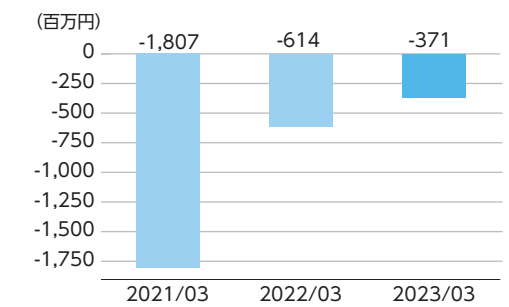


キャッシュ・フローの状況

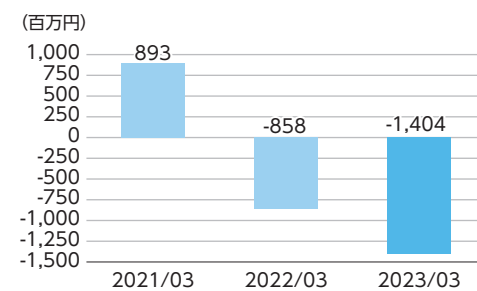
営業活動によるキャッシュ・フロー



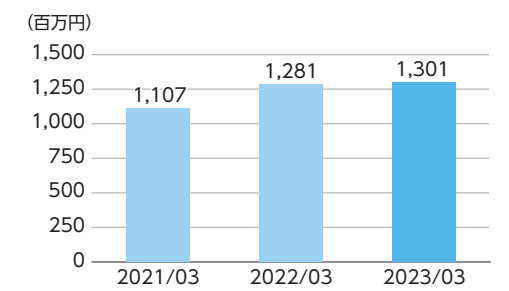
投資活動によるキャッシュ・フロー



財務活動によるキャッシュ・フロー



現金及び現金同等物期末残高



南海化学株式会社概況

(2023年3月31日現在)

会社概況・役員

- 会社設立 1951年6月26日
- 資本金 4億5413万9200円
- 従業員数 196名
- 事業所

本社	大阪市西区南堀江1丁目12番19号四ツ橋スタービル
東京支店	東京都台東区東上野2丁目18番10号上野ビル
京都支店	京都市南区吉祥院新田式ノ段町19番2号
土佐オフィス	高知市棧橋通4丁目10番1号
和歌山工場	和歌山市小雑賀1丁目1番38号
青岸工場	和歌山市湊1342番地
土佐工場	高知市棧橋通4丁目10番1号

役員 (2023年6月28日現在)

- | | |
|---|-------|
| 代表取締役 社長執行役員 | 菅野 秀夫 |
| 取締役 常務執行役員 営業本部長 | 金居 成康 |
| 取締役 常務執行役員 業務本部長 兼 管理部長 兼 チーフコンプライアンスオフィサー | 室井 真澄 |
| 取締役 執行役員 青岸工場長 兼 事業開発本部長 兼 エヌシー環境(株)代表取締役社長 | 吉門 孝芳 |
| 取締役 執行役員 和歌山工場長 | 谷崎 彰男 |
| 社外取締役 | 堀尾 知樹 |
| 取締役 監査等委員(常勤) | 上川 圭一 |
| 取締役 監査等委員(社外取締役) | 伊集院 薫 |
| 取締役 監査等委員(社外取締役) | 檜山 洋子 |
| 取締役 監査等委員(社外取締役) | 海部 行延 |

株式の状況

発行可能株式総数 7,900,000株
発行済株式数 2,330,330株

所有者別状況 (2023年3月31日現在)

区分	株主数(人)	持株数(株)	構成比率(%)
法人等	46	1,024,488	79.7
個人	122	261,559	20.3
自己名義	1	1,044,283	—
合計	169	2,330,330	100.0

環境・安全、社会活動のあゆみ

- 1995年 4月 日本レスポンスブル・ケア協議会(JRCC)に加入
- 1998年 11月 和歌山工場ISO9002認証取得
- 1999年 8月 土佐工場ISO9002認証取得
- 2000年 3月 和歌山工場ISO14001認証取得
- 2000年 8月 RC推進室を和歌山工場に置く
- 2000年 12月 土佐工場ISO14001認証取得
- 2001年 8月 RC推進室を土佐工場へ移管
- 2002年 12月 和歌山工場ISO9001移行完了
- 2003年 3月 土佐工場ISO9001移行完了
- 2006年 4月 労働安全衛生MSのスタート
- 2007年 10月 RC推進室を青岸工場へ移管
- 2010年 4月 RC推進室を和歌山工場へ移管
- 2023年 8月 RC推進室を本社へ移管

ビジネスネットワーク

